

出雲の伝統工芸「^{かん なび}神灯あんどん」

出雲市には、豊かな自然と歴史に育まれた多くの優れた伝統工芸があります。作り手の方の想いとともに出雲の工芸を紹介します。

今回ご紹介するのは、多々納工房（大社町）で製作される「神灯あんどん」です。小さな木片を釘など使わずに組合せる組子細工の技術を用いて作られる「神灯あんどん」は、その美しい球体や緻密な紋様から木の香りと共に雰囲気のある灯りを放ち、メディアや展示会でも紹介され、海外でも高く評価されています。製作者の多々納弘光さんは、建具職人として中部山陰建具同業組合の卓越技術賞をはじめ、多くの賞を受賞されています。



神灯あんどん誕生秘話

ある日、子ども達が湾曲させてしまった製作中の組子細工からヒントを得て、試作を作り続ける生活が始まりました。その過程で、「あんどんを作るための道具も自作していくうちに、200を超えてしまったよ」と語られました。



製作者の多々納さん

気が遠くなるほどの失敗を繰り返し、5年2か月の歳月を経て「神灯あんどん」が完成し、その工法は特許として認定されました。

職人の信念

「わしは技術を活かして、世界にない新しいものを作っとなるから。素晴らしいと言ってもら言葉がごちそうです。わしの全てですわ、この仕事は」

多々納工房では、魅力のある商品を作れば信頼を得られ、興味があれば訪ねてもらえと考え、看板を出しておられませんが、見る者の心をとらえ癒しを感じられるようなオンラインの作品を作り続けておられます。



手しごとマップHP

おたずね／商工振興課 ☎21-6572

OH!

地産地消コーナー まいがな出雲!

地元でとれる食材のおいしさを再発見してもらい、積極的に消費してもらいたい! 地元食材や生産者に親しみをもってもらい、地域への愛着を深めてもらいたい! どの思いで、毎月いろいろなお届けします。

Vol.16 出雲の台所



今月の担当 農業振興課 ☎21-6557

「出雲総合地方卸売市場」をご存知ですか? ここには、市内産を中心とした地元の野菜や果物などが集まっています。今回は、この市場で野菜の販売を担当している川上さんにお話を聞きました。

◎市場ってどんなところですか?

「農家さんが作って持ち込んだ品物を、自分たちがスーパーのバイヤーさんなどに販売します。数週間先に持ちこまれる品物を事前に契約する場合もあるし、競りをするものもあります。」

◎品物はどこから来てどこへ行くのですか?

「市内はもちろん、大田や雲南から持ち込まれる個人農家さんもあるし、JAから出荷されるものは県内全域から集まっています。販売先は、地元のスーパーや八百屋さんのほか、仲卸業者や大手スーパーとも取引しています。大手はいろいろな流通経路を持っていて、全国各地の品物を仕入れることができますが、地元産が欲しいということでうちの市場とも取引してもらっています。」

◎市場の様子は以前と比べてどうですか?

「町の八百屋さんがすごく減って、競りに参加する人が少なくなりました。この仕事に就いて40年近くになりますが、

以前は競りがもっとにぎやかだったし、農産物もたくさん出荷されていました。今は農産物の量も少なくなりましたね。生産者の高齢化と減少で、年々入荷量が少なくなって、地元産が欲しいという買い手の要望があっても応えられなくなってきています。」

◎こうなってほしいという思いを教えてください。

「地元の生産者が増えて、出荷量が増えるといいですね。若手の農家さんもいて頑張ってもらっていますが、稲作がメインの営農組合で野菜作りを始めてもらうとか、農業振興のためのいろいろな制度があると思うので、それらを活用して地元の農産物をもっと増やしてほしいです。」

地元産の農産物と、その生産者への愛情を深く感じた川上さんのお話でした。



競りをする川上さん
(左から3人目)



競りの様子